

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393400142		
法人名	社会福祉法人 十字会		
事業所名	十字園第二グループホーム		
所在地	岡山県真庭市下河内2275-2		
自己評価作成日	令和 1年 10月 1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kanistrue&kljyosyoCd=3393400142-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和1年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた立地条件を活用し、四季折々の草花を楽しみながら広い園庭を散歩したり、お花見やお正月準備など季節の行事を取り入れて、利用者の昔ながらの家庭的な生活を営めるよう工夫しています。又、広い畑を活用して、季節の野菜をつくり、敷地内の栗を拾い椎茸かりや草取りをして園庭を管理し日々の生活を楽しんでいます。園内にあるふれあい館で行われる「おちあいまちかど展覧会」は良い地域交流の場となっています。祭りの季節には地域のだんじりが来て餅投げを行い、楽しいひと時を過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

身体拘束ゼロ委員会で、毎回目標を決めている。今回はチェック表を作成し、①動こうとする利用者に「ちょっと待って」と制止しない。②食事介助など「早く〇〇して」と急かさない。③利用者の訴えに対して適当に返答をしない。④「〇〇してください」等指示的な声掛けをしない。⑤排泄時等にプライバシーを侵す配慮のない声掛けをしていないかどうか。以上を毎日確認している。日々自己評価をしているので、やむを得ず待ってもらわないといけない場合も、丁寧に理由を説明できるようになっている。利用者が訴えれば、その訴えに対してできる限りの対応をしている。例えば一日何度も〇〇病院や家族へ連絡して欲しいと要望されるので、病院の事務員や家族の振りをして対応をしている。また、養命酒が飲みたいと言えば、ぶどうジュースを養命酒に見立てて飲んでもらっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着サービス事業所の理念を玄関、フロアに掲示し、その理念を意識し実践できるようにしている。	理念に「その人らしく暮らせる」を掲げ支援をしている。法人内で実施される研修に参加し、それを事業所へ持ち帰り、伝達研修を実施し、質の高い介護サービスが提供できるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議やお花見会などの行事を通じ、利用者と地域の方が交流を図っている。地域行事のまちかど展覧会には、今年も作品を展示した。秋祭りには地域のだんじりが園内に来てくれた。	環境に恵まれ、関連9施設が山頂を切り開いた広い土地に建っている。その広大な土地に植えられた桜は、満開の時期には目を見張る程で、地域の人を大勢招待し、花見をしている。その際には利用者も参加し、地域の人達と交流する。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	真庭市グループホーム連絡協議会に参加して、情報交換や、研修参加に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を活かして委員の方、ご家族全員に参加を呼び掛けている。今年度納涼祭では半数のご家族参加があった。	行事も同じ日に実施し、利用者や交流する機会を設けている。たこ焼き・かき氷・ヨーヨー釣りそして金魚すくい等が出店する納涼祭は、委員も手伝いをしてくれ、利用者と一緒に楽しんでくれる。会議の場で出た意見は、次の事業計画に組み込んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡協議会や運営推進会議を通して情報交換やアドバイスを頂いている。	市の担当者は納涼祭の出店を手伝ってくれ、その出店に来る利用者や楽しそうに会話をし、交流を図ってくれる。運営推進会議にも参加してくれ、もらったアドバイスは、サービス向上に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ委員会に参加して事業所に持ち帰り、実践にいかしている。玄関を施錠しない対策を職員と考えている。	利用者の訴えに対し、できる限り対応をしている。利用者が外へ出たがれば、抑制はせず一緒に外へ出る。また少しでも落ち着いて過ごせるよう、気晴らしをみつけ、提供をしている。	新しい目標計画を検討している。それは、利用者から声を掛けられたら、用事をしていても手を止め、利用者の話を聞くようにすることである。素晴らしい目標なので、達成に期待を寄せる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の身体拘束ゼロ委員会の虐待研修に参加し事業内でも虐待防止について意見を出し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方はもちろん、管理者、職員、後見人の方と同じ方向で支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約や介護保険の改定時には家族に説明し、その都度同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活の様子が分かりやすいように、法人広報誌「ふれあい」や「第二グループホームだより」を配布し活動報告をしている。玄関の見えやすいところに、「意見箱」を設置し意見の反映をしている。	家族からの意見や要望にはできる限り対応をしている。先日も運営推進会議の場で、両親が手作り弁当の行事を楽しそうにしていたので、回数を増やして欲しいとの意見があり、来年度の行事計画に反映させることにした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議、副主任会議を職員にも周知している。人事考課では面接時にも職員の意見や提案を聞いている。	職員は、日頃から不明点があれば、相談をしている。個人面談の場でも自分の意向を伝えられる。他事業所から異動した職員は、新しい目で見て気になる点は伝えて欲しいと言ってくれるので、素直に意見が言いやすい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度から人事考課制度の導入を行い職務の改善と資質の向上に努めている。労働安全衛生委員会では腰痛予防や環境整備等も検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修委員会で7回/年の研修が行われる。内容は様々で参加者は各事業所に持ち寄り、意見交換、勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	真庭市グループホーム連絡協議会が1回/半年開催され参加している。同業者が抱える問題やアイデアなどの意見を持ち寄り、介護サービスの質の向上ができるよう交流を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報提供や、本人、ご家族の意向や不安なことを入居時に話合っている。生活歴の把握を行い、信頼感を持ってもらえるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時にはご家族の困っている事、不安な事を、要望等を聞きながら、信頼関係を築いていっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と相談しながら、本人に必要な支援方法を考え、出来るだけ本人の環境を変えないような対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る家事(掃除・調理・洗濯干し等)本人の出来る部分を尊重し、日常生活を一緒に送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出を通して家族との絆を大切に支援している。本人の日頃からの思いを家族に伝えたり、関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆やお正月には墓参りに帰ったり、家族とドライブや外出に行ったりと関係継続に向けた支援を行っている。	家族の中でも面会に行くことで、帰宅願望が募るとの不安から、なかなか来られない人もいる。その家族の不安を払拭できるよう何度も働きかけ、面会の頻度が増えたこともある。紙パンツやパットなどの物品は、家族に持ち込みを依頼し、事業所へ足を運んでもらう機会としている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係づくりの仲介が図れるようにしている。一人ひとりがさみしい思いをせず、安心した環境づくりができるよう支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に長期入院になったり、施設入所になっても、必要に応じて相談や支援ができることを契約時にも説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族や関係者から今までの生活の様子を聞き、本人、家族の希望を聞いている。	感情がなかなかコントロールできず、声を荒げてしまう利用者には、大好きな塗り絵をしてもらっている。持ち込んでもらった塗り絵だけでは直ぐに終わってしまうので、職員がカレンダーの裏などに絵を描き、満足するまで塗り絵を楽しんでもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「生活歴情報シート」や関係資料をもとに、今までのサービス利用や暮らしの把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の現状の把握をし、職員間で情報の共有ができるよう定期的にカンファレンスをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年毎のモニタリングや介護計画作成に伴い関係者で話合っている。また、状態変化時には再度作成している。	介護計画は、家族や職員の意見を取り入れた内容となっている。家族には面会時等に要望を確認しているが、一緒に話し合いの場に参加してもらうこともある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケース記録を記入し、職員間で情報を共有しながら、個別の対応ができるようにしている。利用者のニーズにあわせたケア、サービスを検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々柔軟に対応できるよう取り組んでいる。本人の状態変化に対応しながら、取り組めるよう家族、本人とも話合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年も地域の子供だんじりが来て、餅拾いをした。少しの時間でも楽しみを持ち過ごせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2回/月に主治医の訪問診療がある。日頃の様子や状態変化に注意し医療との連携を図り利用者の体調管理に努めている。	入所時に、かかりつけ医の希望を確認している。往診をしてくれる協力医へ変更する家族が多い。利用者の体調が思わしくない時は、看護師に状況を連絡すると、協力医が様子を確認に来てくれるので、医療面でも安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護には、体調面の相談をして、関係づくりに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入退院時には、日頃から協力医、訪問看護師に相談し医療機関との連携を図っている。入院時には情報シートや真庭共通シートを持参し情報共有をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化したときの対応を家族と話している。また、体調変化に伴い、本人、家族、地域の関係者とも話をし支援している。	本人が望む場所で最期まで暮らしていくことができるよう、医療機関と家族等で協力しながら対応をしている。入退院を繰り返した場合は、医師に相談しながら、本人の負担がないよう家族の希望を聞き、対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時ファイルを日頃から確認し急変時や事故発生時に備えている。緊急時フローチャート、マニュアルも定期的に確認し実践に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回/年の法人の防災訓練には地元の消防団や消防署の参加がある。事業所でも1回/月、防災マニュアルの確認や避難誘導訓練などを行い、日頃から防災意識を高めている。	法人全体で実施される避難訓練には、消防署と消防団も参加してくれ、より実践に近い訓練となっている。毎月防災訓練を実施しているので、利用者の誘導もスムーズに行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のペースを尊重した介護や対応をしている。自尊心を損ねないよう声掛けや対応をしている。	利用者の尊厳を大切にし、さん付けで呼ぶ。敬語を使う等の宣言書を掲示し、実践に努めている。利用者が汚れた下着を隠したり、大量のトイレトーパーを居室に持ち帰ったりすれば、清掃時等にさりげなく撤去している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きな服を選んだり、化粧をしたり自分の意思決定ができるだけ出来るよう支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく暮らせるように本人のペースを尊重している。自分のしたい事やしてもらいたい事を把握し、安心できる環境づくりをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をしたり、ネックレスをしたり、ご家族と一緒に行きつけの美容室に行くなど、その人が楽しみを持ち過ごせるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外で拾った栗をむき、栗ご飯やおこわを作って季節を味わっている。祭りには鯖寿司や、お正月料理などを作り、楽しみのある支援をしている。	法人の管理栄養士が健康に配慮した献立を作成してくれる。苦手な献立の時は、刺身を焼くなど調理方法を工夫して提供している。食べ終えた食器を片付けると、食べるスピードが遅い利用者が慌ててしまうので、全員が食べ終わるまで片づけはしないようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	魚が嫌いな人には別のものを提供したり、法人管理栄養士と相談しながら、栄養、水分確保をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には口腔ケアを促している。2回/週は入れ歯洗浄液につけ清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけ自分でトイレで排泄ができるよう、排泄リズムの把握を行い、清潔に自立した支援ができるようにしている。	利用者がそわそわしたり、ウロウロしたりしていた際は傍により「何かお探しですか」と尋ね、誘導をしている。尿意を感じない利用者には、時間を見計らって誘導しているので、失敗も少ない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、便秘をしないように水分や飲食物の工夫をしている。必要時は医療との連携を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	冬至には柚子湯に入って頂いたり、本人の拒否がある時は時間や曜日を変えたり柔軟な対応をしている。	入浴日は決めているが、利用者の希望を確認しながら無理には勧めない。職員は利用者には、「足元からお湯をかけさせてもらいます」「湯加減はいかがですか」等、その都度確認しながら支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない人には一緒にお話しをしたり、飲み物を提供したり、簡単な食べ物を出したり落ち着いて過ごせるような環境づくりをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が服薬内容を理解した上で、専用のケースを個人別に分け、確実に服薬できたか確認している。臨時の薬などは、その後状態変化に注意し、職員間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活習慣を大切にして、畑仕事、家事、趣味の設定を行い、役割づくりや生きがいづくりを促している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は家族に支援をしてもらっている。2回/月セブンイレブンにおやつの買い出しに行っている。園庭が広いので、栗拾いや畑仕事も気候の良い時には行っている。	敷地に畑を作り野菜を利用者と一緒に育て、収穫をしている。月に2回利用者と一緒にコンビニエンスストアに買い物に行っている。美容院・買い物・外食・法事そして墓参り等の外出支援は、家族が協力してくれる。週3日外食にでかける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで返って不安になる方がおられるので小銭程度しか所持していただいていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の家族に対する思いを尊重できるよう、希望があれば、電話のやり取りができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適切な明るさ、落ち着くような音楽、温度、湿度などの環境作りを行い、快適な空間づくりに努めている。季節の花を植えたり、飾ったり季節感を取り入れ居心地良く過ごせるよう工夫している。	利用者の希望に沿った席になるよう、席替えをしている。例えば窓からの光が眩しい。仲が良い人の隣に座りたい等の要望である。冬場はテレビの前にこたつを置き、ゆったりとした時間の中で時を過ごしてもらっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂で楽しく会話をしたり、自室でゆっくり過ごしたり、一人ひとりのペースを尊重した支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使いなれた物や家具などを各部屋に配置して家にいるような雰囲気づくりをしている。	ベッドは地震の際にガラスが割れて怪我をしないよう、窓から離れた場所に置くようになっている。自分で塗った塗り絵の作品や活けた生け花を飾ったり、楽しい思い出がたくさん詰まった居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内で自立した生活ができるよう、「トイレ」と書いた表示や「表札」を作り、不安なく安全に過ごせるよう配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393400142		
法人名	社会福祉法人 十字会		
事業所名	十字園第二グループホーム		
所在地	岡山県真庭市下河内2275-2		
自己評価作成日	令和 1年 10月 1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanistrue&jigyooyoCd=3393400142-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和1年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた立地条件を活用し、四季折々の草花を楽しみながら広い園庭を散歩したり、お花見やお正月準備など季節の行事を取り入れて、利用者の昔ながらの家庭的な生活を営めるよう工夫しています。又、広い畑を活用して、季節の野菜をつくり、敷地内の栗を拾い椎茸かりや草取りをして園庭を管理し日々の生活を楽しんでいます。園内にあるふれあい館で行われる「おちあいまちかど展覧会」は良い地域交流の場となっています。祭りの季節には地域のだんじりが来て餅投げを行い、楽しいひと時を過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着サービス事業所の理念を玄関、フロアに掲示し、その理念を意識し実践できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議やお花見会などの行事を通じ、利用者と地域の方が交流を図っている。地域行事のまちかど展覧会には、今年も作品を展示した。秋祭りには地域のだんじりが園内に来てくれた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	真庭市グループホーム連絡協議会に参加して、情報交換や、研修参加に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を活かして委員の方、ご家族全員に参加を呼び掛けている。今年度納涼祭では半数のご家族参加があった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡協議会や運営推進会議を通して情報交換やアドバイスを頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ委員会に参加して事業所に持ち帰り、実践にいかしている。玄関を施錠しない対策を職員と考えている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の身体拘束ゼロ委員会の虐待研修に参加し事業内でも虐待防止について意見を出し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方はもちろん、管理者、職員、後見人の方と同じ方向で支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約や介護保険の改定時には家族に説明し、その都度同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活の様子が分かりやすいように、法人広報誌「ふれあい」や「第二グループホームだより」を配布し活動報告をしている。玄関の見えやすいところに、「意見箱」を設置し意見の反映をしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議、副主任会議を職員にも周知している。人事考課では面接時にも職員の意見や提案を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度から人事考課制度の導入を行い職務の改善と資質の向上に努めている。労働安全衛生委員会では腰痛予防や環境整備等も検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修委員会で7回/年の研修が行われる。内容は様々で参加者は各事業所に持ち寄り、意見交換、勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	真庭市グループホーム連絡協議会が1回/半年開催され参加している。同業者が抱える問題やアイデアなどの意見を持ち寄り、介護サービスの質の向上ができるよう交流を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報提供や、本人、ご家族の意向や不安なことを入居時に話合っている。生活歴の把握を行い、信頼感を持ってもらえるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時にはご家族の困っている事、不安な事を、要望等を聞きながら、信頼関係を築いていっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と相談しながら、本人に必要な支援方法を考え、出来るだけ本人の環境を変えないような対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る家事(掃除・調理・洗濯干し等)本人の出来る部分を尊重し、日常生活を一緒に送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出を通して家族との絆を大切に支援している。本人の日頃からの思いを家族に伝えたり、関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆やお正月には墓参りに帰ったり、家族とドライブや外出に行ったりと関係継続に向けた支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係づくりの仲介が図れるようにしている。一人ひとりがさみしい思いをせず、安心した環境づくりができるよう支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に長期入院になったり、施設入所になっても、必要に応じて相談や支援ができることを契約時にも説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族や関係者から今までの生活の様子を聞き、本人、家族の希望を聞いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「生活歴情報シート」や関係資料をもとに、今までのサービス利用や暮らしの把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の現状の把握をし、職員間で情報の共有ができるよう定期的にカンファレンスをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年毎のモニタリングや介護計画作成に伴い関係者で話合っている。また、状態変化時には再度作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケース記録を記入し、職員間で情報を共有しながら、個別の対応ができるようにしている。利用者のニーズにあわせたケア、サービスを検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々柔軟に対応できるよう取り組んでいる。本人の状態変化に対応しながら、取り組めるよう家族、本人とも話合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年も地域の子供だんじりが来て、餅拾いをした。少しの時間でも楽しみを持ち過ごせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2回/月に主治医の訪問診療がある。日頃の様子や状態変化に注意し医療との連携を図り利用者の体調管理に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護には、体調面の相談をして、関係づくりに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入退院時には、日頃から協力医、訪問看護師に相談し医療機関との連携を図っている。入院時には情報シートや真庭共通シートを持参し情報共有をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化したときの対応を家族と話している。また、体調変化に伴い、本人、家族、地域の関係者とも話を行い支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時ファイルを日頃から確認し急変時や事故発生時に備えている。緊急時フローチャート、マニュアルも定期的に確認し実践に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回/年の法人の防災訓練には地元の消防団や消防署の参加がある。事業所でも1回/月、防災マニュアルの確認や避難誘導訓練などを行い、日頃から防災意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のペースを尊重した介護や対応をしている。自尊心を損ねないよう声掛けや対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きな服を選んだり、化粧をしたり自分の意思決定ができるだけ出来るよう支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく暮らせるように本人のペースを尊重している。自分のしたい事やしてもらいたい事を把握し、安心できる環境づくりをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をしたり、ネックレスをしたり、ご家族と一緒に行きつけの美容室に行くなど、その人が楽しみを持ち過ごせるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外で拾った栗をむき、栗ご飯やおこわを作って季節を味わっている。祭りには鯖寿司や、お正月料理などを作り、楽しみのある支援をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	魚が嫌いな人には別のものを提供したり、法人管理栄養士と相談しながら、栄養、水分確保をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には口腔ケアを促している。2回/週は入れ歯洗浄液につけ清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけ自分でトイレで排泄ができるよう、排泄リズムの把握を行い、清潔に自立した支援ができるようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、便秘をしないように水分や飲食物の工夫をしている。必要時は医療との連携を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	冬至には柚子湯に入って頂いたり、本人の拒否がある時は時間や曜日を変えたり柔軟な対応をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない人には一緒にお話しをしたり、飲み物を提供したり、簡単な食べ物を出したり落ち着いて過ごせるような環境づくりをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が服薬内容を理解した上で、専用のケースを個人別に分け、確実に服薬できたか確認している。臨時の薬などは、その後状態変化に注意し、職員間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活習慣を大切にして、畑仕事、家事、趣味の設定を行い、役割づくりや生きがいづくりを促している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は家族に支援をしてもらっている。2回/月セブンイレブンにおやつの買い出しに行っている。園庭が広いので、栗拾いや畑仕事も気候の良い時には行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで返って不安になる方がおられるので小銭程度しか所持していただいていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の家族に対する思いを尊重できるよう、希望があれば、電話のやり取りができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適切な明るさ、落ち着くような音楽、温度、湿度などの環境作りを行い、快適な空間づくりに努めている。季節の花を植えたり、飾ったり季節感を取り入れ居心地良く過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂で楽しく会話をしたり、自室でゆっくり過ごしたり、一人ひとりのペースを尊重した支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使いなれた物や家具などを各部屋に配置して家にいるような雰囲気づくりをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内で自立した生活ができるよう、「トイレ」と書いた表示や「表札」を作り、不安なく安全に過ごせるよう配慮している。		